校長室から　ひがしなら通心

（Ｈ３０年度）

茨木市立東奈良小学校　川上　隆　Ｎｏ．３７

平成３０年１１月２０日（火）発行

紅葉の季節

日本の各地で紅葉のニュースが聞かれるようになりました。秋が深まってきたと感じますね。「モミジ」と「カエデ」の違い、みなさんはわかりますか。植物学的には広く「カエデ」で、「カエデ」の中で特に色が変わるものを「モミジ」と呼んでいます。「モミジ」は漢字で書くと「紅葉（こうよう）」で、字が表すとおり「葉が紅（あか）く色づいた状態」を指します。赤く染まる葉のことを「紅葉」と言いますが、黄色に染まる葉のことを「黄葉」と書いて「こうよう」と読むこともあります。狭い意味では、人の手のように切れ込みが深く紅色の目立つものを「モミジ」、蛙の手のような形で色づかないものを「カエデ」とも読んでいます。「カエデ」は世界に散らばっていますが、「モミジ」はほとんど日本だけです。

さて、日本にはたくさんの種類のモミジがあります。最も有名なのは「イロハモミジ」です。イロハモミジの葉は五～七つに分かれていて、昔は一から数を数えるのに「い、ろ、は、に、ほ、へ、と…」と数えていました。子どもがこのモミジの葉を「い、ろ、は…」と数えたことから、この名前がついたと言われています。



木だけでなく、草にも紅葉するものがあります。草餅にするヨモギや、薬草として知られるドクダミなども赤く色づきます。これらの草が紅葉することを「草モミジ」と言います。植物だけでなく、肉にモミジの名がついているものもあります。それは、鹿の肉です。鹿の猟が紅葉の季節に行われることから、「モミジ肉」と呼ばれるようになったそうです。

最後に、「モミジ」がつく言葉を聞いたことがありますか。幼い子のかわいい手のことを「モミジのような手」、恥ずかしさや怒りなどで、顔が赤くなることを「モミジを散らす」等と言います。日本の四季の良さを、紅葉から感じたいものですね。

勤労感謝の日とは・・・？

２３日（金）は勤労感謝の日（祝日）です。これは働く者に感謝して休日とする、という意味でつくられた祝日ではありません。収穫した作物など、農作業によって得たものの恵みに感謝する日です。

もとは「新嘗祭（にいなめさい）」と呼ばれていた宮中の行事で、帝（みかど：調停制度のあった頃の呼び方で、現在の天皇の祖先）が、その年の秋にとれた米や穀物を神前に供え、米・麦・粟・豆・黍（きび）または稗（ひえ）の五穀豊穣を感謝する祈りを捧げた後、それらを食べる仕草（嘗めるような動き）を行うものでした。新たな帝や天皇が即位した最初の年は、大嘗祭（だいじょうさい）あるいは大嘗会（だいじょうえ）といって大々的に行われます。最近では、平成２年の秋に行われました。テレビ中継があったのですが、残念ながらみなさんはまだ生まれておらず、見たことはないでしょう。つまり、この日は日本各地にある神社で行われる収穫に感謝する祭と同じ意味合いの日ということになります。

ところで、みなさんは食事の前の「いただきます」と食事後の「ごちそうさま（でした）」をきちんと言っていますか？私たちが生きるためには、食べるという行為を欠かすことはできません。食事として出されるものは、もともとは動物または植物ですから、すべて命のあるものです。まずは、その命をいただくことに感謝しなくてはなりません。それと同時に、食材となるものを育てた人、加工した人、調理した人、配膳した人といった、多くの人の手を経て私たちの口に入っていることを忘れず、感謝の心を持つようにしたいものです。

子どもの頃、茶碗に米粒を残していると「米という字は八十八と書く。一粒の米ができるまでには、お百姓さんの八十八もの手間がかかっている。だから、感謝して最後の一粒まで食べなさい」といって、両親から叱られたものです。

みんなのためのルールブック

「あたりまえだけど、とても大切なこと」　ロン･クラーク　草思社

ロン･クラークさんは、アメリカの小学校の先生です。２０００年に、ディズニー社が選ぶ「全米最優秀教師賞」を受賞した、すばらしい先生です。

この本には、クラーク先生が担任するクラスでいつも教える大切なルールが紹介されています。子ども達が、お互いに思いやりをもって楽しく勉強できるように、そして大人になってからも、毎日を大切にして、充実した人生を送れるようにとの願いをこめてつくられた、５０のルールです。クラーク先生が子どものときに祖母から教わった礼儀作法もたくさん入っています。これからまた一つずつ紹介していきますね。

ルール１　大人の質問には、礼儀正しく答えよう

大人の質問に答えるときには、「はい、そうです」とか「いいえ、ちがいます」というように、いつもきちんとした言葉づかいで答えよう。

●大人はみな、きみたちから敬意をもって接してもらいたいと思っている。きみが礼儀正しい言葉づかいで話せば、大人もきみの話をきちんと聞いてくれるだろう。